

令和5年度 自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、他者と協働し地域の未来創造に貢献する人材を育成する。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり
-------------------	--	----------	--

評価項目	評価の具体項目	年度当初			中間評価結果(10月1日)			
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
1 確かな学力の育成	○学力の向上 ・基礎的・基本的な知識及び技能の習得 ・思考力、判断力、表現力の更なる育成 ・主体的・対話的で深い学びの実現	・公開授業及びルーブリック評価、観点別評価に関する研修を実施した。 ・Google for Education やICT活用が進んだが、アクティブラーナーの活用が遅延した。(ICT機器活用100%) ・資格取得(食物検定78%、被服検定100%、保育検定77%)	・組織的、計画的に授業改善を推進する	・Google for Education を活用した授業を実施 ・BYAD対応、ICT機器を活用し、ルーブリック評価・観点別評価のあり方についての校内研修会を実施	・ICTの活用はだいぶ進んでいるが、教科や科目によって十分活用していないこともある ・評価に関する研修会は未実施。	B	・個人だけでなく、教科等で取り組みを継続していく。 ・評価に関する研修会を10月に実施予定。	
			・各教科1人以上が授業公開し、教科横断型授業、授業改善を推進	・各教科1人以上が授業公開し、教科横断型授業、授業改善を推進	・公開授業は実施しているが、教科横断型の授業に関しては進んでいない。	C	・教科横断型の授業について研究し、授業改善を進めていく。 ・公開授業は継続して実施していく。教科において授業改善について取組を行い報告をしていく。	
			・各系列の特色化と資格取得の促進 ・資格試験合格率70%以上	・各系列ごとの各種資格・検定の受験を促し、合格に向けての支援 ・学校独自事業の充実、特別支援学級との交流	・各種資格・検定について、取りまとめが未実施である。 ・計画予定通りに実施している。	C	・受験者がなかったものについては、今年度から呼びかけの工夫を行い次回に向けて募集していく。 ・各種資格・検定について、2学期末に各教科から取組状況および合格等の報告を行う。	
			・生徒が主体的に学習に取り組む	・家庭学習の定着(学習時間調査での1日2時間以上の家庭学習) ・読書する機会の増加	・家庭学習の習慣が定着していない。 ・学習時間調査の結果が2時間に満たない。	C	・教科内で家庭学習の充実のための指導について継続して検討していく。 ・家庭での課題を出すなどして、生徒の家庭学習が習慣化するようしていく。	
2 豊かな人間性の育成	○基本的な生活習慣の定着	・安全意識の高揚と啓発に努めたがヘルメット着用率は10%であった。 ・遅刻者数は前年比10%減であったが、遅刻確認票の徹底が不足した。 ・SNSに起因する問題行動があったが迅速に対応できた。 ・生徒会執行部が主体的に学校行事等の企画・運営をして活動することができた。 ・50周年記念事業でマスコットキャラクターの制作、紹介ができた。 ・国際交流については、コロナ禍の影響で直接はできなかった。 ・外部機関(SSW、児相、医療機関、要対協)との連携が密にでき、早期に対応できた。 ・学校生活アンケートで自己肯定感が高い生徒が80%を超えている。	・規範意識・安全意識の向上	・米子高校生としての身だしなみ・礼儀を促す行動の啓発強化 ・SNSトラブル未然防止に向けたデジタル・リテラシー教育の推進	・服装・頭髪など身だしなみの指導が十分に徹底できていない。 ・あいさつ・交通マナー運動の実施。デジタルリテラシー講演会開催。 ・生徒会執行部を中心として朝のあいさつ運動を行い、あいさつの励行を呼びかけた。	C	・進路目標とつなげて生徒に粘り強く指導する。 ・職員のみでなく生徒会を含めた生徒からの発信する機会を増やしていく。 ・SNSを含めた利用方法について注意喚起していく。 ・継続した取り組みが必要である。後期も生徒会執行部を中心としてあいさつ運動を行う予定。	
			・自転車のヘルメット着用率100%	・自転車のヘルメット着用徹底(生徒による啓発・PTA連携)	・生徒の掃除に取り組む様子は、おおむね良好である。 ・一部であるが掃除の徹底ができていない部分がある。	B	・今後も継続して身の回りの整理整頓、挨拶励行を指導する。 ・職員側からの声掛けを行う。そのための回数・場面を増やす。	
			・遅刻者数前年比10%減少	・遅刻確認票による遅刻者指導の強化と保護者連携	・欠席・遅刻・欠課が多い生徒がいる。 ・遅刻確認票を使い、遅刻への意識を高める。遅刻者数は増加している。	C	・必要な場合は保護者と連携して継続的に指導する。 ・毎月の服装指導において注意喚起する。 ・遅刻確認票について、手続き等生徒の指導を徹底する。	
			・生徒の各種活動への積極的参加	・生徒会執行部を中心とした生徒会行事等の活動充実	・学年として部活動全員加入に向けて声掛けを行った。4月時点では、ほぼ全員がいずれかの部活動に所属した。 ・青雲祭・荒鷲祭・生徒会長選挙など各種生徒会行事に意欲的に取り組む姿が見られた。 ・春季球技大会・青雲祭・荒鷲祭など執行部中心に行事の企画・運営を行うことができた。 ・新たな取り組みとして打ち上げ花火を実施することができた。	B	・部活動を継続する生徒や所属部活動を変更する生徒に声掛けを行う。 ・後期の学校行事も執行部の自発的な活動で引き続き企画・運営を行う。	
3 自己実現のための進路指導の充実	○キャリア教育の発展	・「探究学習」にSDGsの視点を導入することで全学年の系統的なキャリア教育の構築に努めた。 ・探究学習の成果が米子市に提案できなかった。 ・キャリアパスポートの作成はできたが、活用方法について課題が残った。 ・大学進学35名(内国公立3名)の結果であり、就職27名(内公務員5名)であった。 ・看護体験がコロナ禍であったが実現できた。 ・先進校視察ができなかった。	・生徒情報を共有し、適切な支援ができる	・教育相談に関する校内研修、各種委員会での情報共有、外部関係機関との連携による適切な対応	・教育相談部や保護者と連携して早めの生徒対応を行った。 ・情報共有に関する会議、研修会等は予定通り実施できた。第2回教育相談連絡会は10月に実施予定。外部機関(医療機関、市町村、ハートフルスペース、児相等)との連携を行っている。	B	・迅速な情報共有を積極的に行い、早期の人間関係修復や解決への道へつなげる。	
			・豊かな人間関係を築き、生きる力を育む	・学校生活アンケート(年2回実施)で自己肯定感が高いと回答する生徒が80%を超えるようにきめ細かい支援の実施	・9月に行った学校生活アンケートで自己肯定感が高いと回答する生徒は概ね80%いた。1・2年次生のGoogleフォームによるアンケートで提出率は86%だった。	B	・自己肯定感を高めるきめ細やかなサポートを継続する。アンケートの提出率が上がる方法を検討する。 ・2回目との比較を行う予定。	
			○探究学習の充実	・「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」の系統的な探究学習の深化	・産業社会と人間における各種取り組みを、計画通り進めている。 ・産業社会と人間は1学期の事業所見学を廃し、すべて学校見学にした。 ・総合的な探究の時間については、3年次での深まりが十分でない。	B	・社会人講話、探究学習について予定通り進めていく。 ・事業所見学の代替として、社会人講話の講師数を増やして充実を図っている。 ・来年度に向けて探究学習について内容の総括と検討が必要。	
			○進路指導の充実	・教員研修と進路希望検討会、探究学習の充実による進路保障	・3年次生は、1学期人権教育LHRを実施。 ・10月より全学年で人権教育LHRを実施する。	B	・学年全体の人権意識を高め、ワールドカフェに向けて準備を進めていく。 ・人権学習委員を活用して生徒全体の人権意識を高める工夫をする。 ・人権学習委員を主体的に活動させる。	
4 地域との連携による学校づくり	○地域へのニーズに応じた地域貢献	・コロナ禍でのイベントのため制限があったが、開催をする工夫等を行い活動をみせた。 ・地域との連携により学校への信頼、期待がなされている。 ・小学校へのキャリアガイダンスを実施することができた。 ・学校運営協議会の活動の活性化がコロナ禍のために不十分であった。 ・情報発信については、ホームページの更新を迅速に行うことができた。	・文化芸術活動、系列での事業、総合的な探究の時間を通して地域のニーズに積極的に答える	・部活動における各種イベントの企画・開催と参加(ハイボット・ダンスフェスティバル、施設訪問、書道パフォーマンス) ・部活動単位におけるボランティア活動等地域への参画	・部活動単位で保育園交流、施設への訪問、地域公民館での発表等を行っている。	A	・今後も部活動において、継続して実施する予定。	
			・社会に繋がる教育活動を推進	・系列事業、総合的な探究の時間における活動で地域貢献を促進(イチゴ栽培・収穫交流、花壇用草花植栽活動、プログラミング教室、夢蔵プロジェクトとの連携)	・夢蔵プロジェクトの理事を招き、3年次生(市内観光ウォーキングを探究)に対して講話を実施。 ・系列の事業について計画通りに実施。	B	・探究学習・地域貢献関わる場面を今後増やしていく。 ・継続して実施していく。	
			○積極的な社会参画と情報発信	・学校運営協議会の活用した地域との連携活動の推進(はるかのみまわり絆プロジェクト、自転車ヘルメット着用指導)	・学校運営協議会を活用した地域との連携活動の推進(はるかのみまわり絆プロジェクト、自転車ヘルメット着用指導)	・はるかのみまわり絆プロジェクトでは、執行部を中心として種まき、種の収穫を行うことができた。来年度のプロジェクトに向けて十分な量の種を収穫することができた。	B	・来年の種まきに向けて、種の乾燥・保存を適切に行う
			・高次生出前キャリアガイダンスによる生徒活動の活性化	・実施に向けて準備を行っている。	B	・中学校は、12月に前年キャリアガイダンスを実施する予定。 ・小学校は、2学期後半または3学期に実施する予定。		
5 業務カイゼンへの取組(追加項目)	○前年度に対して、時間外業務の削減	・令和4年度時間外業務実績平均18.2時間、上限方針に係る事後検証の対象となった。 ・時間外勤務が45時間を超える教職員が複数名いた。	・時間外業務時間が前年度比10%減 ・年間の時間外業務時間が前年より減少	・部活動顧問の時間外業務の削減(外部指導者、部活動指導員の活用) ・勤怠システムのセルフチェック、時間外時間を翌日に入力することで意識付けを行う	・部活動指導員・外部指導者の活用により当該部活動における時間外業務時間は下回っている。 ・時間外業務時間はできるだけ早く入力している。時間外業務時間が増加している人が複数いる。	B	・継続して活用していく。 ・時間外業務時間の削減に努める。 ・セルフチェックの呼びかけを行う。	
			○分掌業務の見直し	・分掌内での業務の精選 ・ICTの活用	・共有ファイルの在り方や書類の整理を行い、誰でもわかるようにしていく ・業務の効率化と意識改革の推進を行う	・学年連絡ボードの設置(教務室)、学年フォルダ(PC内)の整理整頓 ・分かりやすいフォルダにまとめるなど、徐々に進めている。 ・取組が不十分である。 ・業務改善は実施できていない。 ・効率化が進んでいない。 ・連絡を密にし、業務が円滑に進むようにしている。	C	・引き続き情報を共有しやすい環境づくりに努める。 ・使用頻度の高いフォルダを見つけやすくするよう工夫する。分掌を越えて必要な情報をアクセスしやすい場所に置く。 ・進路や教務との情報の共有をして無駄を減らす。 ・ICTの活用や業務の精選を行う。 ・分掌、学年において業務内内容の仕分けを行い、結果を報告し、効率化を図っていく。

評価基準(中間評価までの時点) A:目的・目標を達成した B:ほぼ計画(予定)どおり推進している C:取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D:一層の(新たな)取組が必要